

わたしたちの新しい「ロゴマーク」を紹介します。

機構改革に際して、ジャパンファウンデーションの役割とわたしたちの決意をあらためて皆様にお伝えしたく思い、新しいロゴマークを作りました。



JAPAN FOUNDATION

シンボルマーク

私たちは日本文化の魅力を発信し、世界の人々と共感し、理解しあえる国際交流のしごとを進めていくために、世界に飛翔するカタリスト(触媒)でありたいと思います。

モチーフはJとF

シンボルマークはjとfの小文字の組み合わせです。活字体ではなく筆記体とすることで、柔軟で親しみのある文化の送り手としての姿勢を示します。

コンセプトはしなやかな飛翔

しなやかな美しさは、無知や偏見からの自由、国境や文化を超えた相互理解や知的創造に必要なダイナミズムを表しています。

フォルムは蝶

蝶のようなフォルムの中心は日本です。中心から出て再び中心へ戻ってくる柔らかなフォルムは、日本の文化・芸術・ことば・思想を世界のすみずみまで届け、また世界の多様な文化・芸術・ことば・思想を日本へ伝えたいという循環性を表現しています。

カラーは紫

紫は創立以来、私たちのシンボルカラーです。継続して使用してまいります。

基金からJFへ

これから私たちはJapan Foundationとして内外の方々に共通の認識をもっていただきたいのです。この呼称とjとfのシンボルマークを一体化して私たちは発信していきます。



ジャパンファウンデーションの歩み

1970年前後、日本の急速な経済成長にともなって文化面での日本の発信能力を強化していく必要性が認識されるようになりました。1972年1月、福田外務大臣(当時)は、大規模な基金を有し、かつ強力な実施組織を備えた文化交流機関として、国際交流基金を設立する構想を発表しました。これを受けて同年、国際交流基金(The Japan Foundation)が外務省所管の特殊法人として発足しました。その後、2003年10月に独立行政法人化し、現在に至っています。

設立当初、基金の運用資金は約50億円でしたが、その後、政府からの追加出資が行なわれ、2003年10月1日の独立行政法人への移行時の政府出資金は約1,110億円です。その運営は、政府からの運営費交付金、政府出資金の運用益、国際交流基金フォーラムの運営、日本語能力試験等を通じた自己収入および民間からの寄附金等により賄われています。

設立の目的

ジャパンファウンデーションは、「独立行政法人国際交流基金法」という法律のもとで設立されています。文化や言葉、伝統、歴史などあらゆる分野での日本の姿を、世界中の多くの方に伝えることで日本に対する理解を深めてもらい、同時に日々刻々と変わる世界の多様な文化の実状を日本の皆様にお伝えすることで、国際相互理解、異文化交流を促進することを目的として、国内4カ所、海外19カ所の事務所を基点として世界中で活動しています。

独立行政法人国際交流基金法 第3条

独立行政法人国際交流基金(以下「基金」という。)は、国際文化交流事業を総合的かつ効率的に行なうことにより、我が国に対する諸外国の理解を深め、国際相互理解を増進し、及び文化その他の分野において世界に貢献し、もって良好な国際環境の整備並びに我が国の調和ある対外関係の維持及び発展に寄与することを目的とする。